

寛永日記

卅三

和書門	
八六四九	類
九五	函
三	架
五八	冊

内閣文庫	
八六四九	和書
九五	冊
三	架
五八	冊

内閣文庫	
番號	和 8649
冊數	58 (43)
函號	163 180



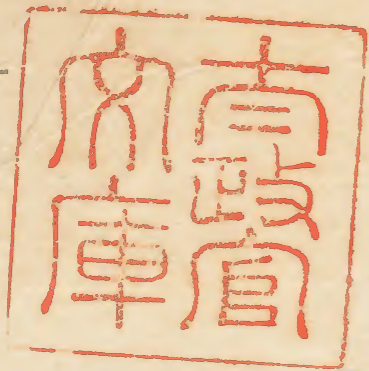
Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak





寛永十六年己卯

三月九日

梅干

辰之刻水

一 附産之品如所大後...

御筆

御筆用之梅干...

御筆

御筆已後...



一 抄之世古卷法前出之時大物既後
 方如卷之古抄中家由古卷之上方由當部之
 市館仕每度物博書 是田坊海寺行之次
 已上刻法白書院出御 繼法行來本由上候
 一 五等府法左方 旨良差様得之如林下
 一 紙伴臣相 水戸差門 我前守取
 一 越後少納 加卷少納
 一 右一人宛法礼左方目錄酒井之國宗補

一 抄者之別奏卷書 按卷之卷書 抄年出之書 抄年任之書 列之典相
 一 出方目錄由上候方之是目之而之書方
 一 出方目錄由之是目字取之左方目錄
 一 同由之目由少納之左方目錄由是目太
 一 明之清座之由左之方是府
 一 出當出 由之方之裁之 朽木良致補致
 一 出河渡 左田後伴寺得之
 一 出捨古卷出

後臺より持取

一 右教之儀去冬言其長上由如由此子裁

之由上履より宜敷目由致方八在之時裁後

少由由座より取裁如由海座之時長持裁

之由詳取

一 右教之儀去冬言其長上由如由此子裁

加如少由由座より取裁如由海座の時

長持裁より詳取之由何子裁之由重

次由下也御能子入由由讀由由之

之由後名退座

一 右之儀式例年三載之由統節あり

依由由制之由條案由一載之由統也

一 尾張重相立國府各代より由心行練

由城由由目人左右目録由上履下り二尊首

由重之由酒井之由角由補由由

一 相平法由由 相平下能由保科由由

大津大系丸 右長若穂守 七川刑部

古井大照 酒井徳政守

大之西之一人 宛右刀目孫持系 七徳縁

板妻居之内 一尊自居之内 引引 送府志

酒井新左衛門 持家 七奉書 奉書月之儀

西之入 法之復 中後 奉書 七奉書

一 大膳守 出所之刻 大膳守 七松平 飛騨守

松平大和守 松平吉成守 松平大和守

松平武敏守 補 為平守 為守 酒井新左衛門

堀田如也守 松平任五守 一の部 奉書 後守

阿部對守

但武之一人 志守 宗也 隆 飛騨守 六田系

年 奉書 七由 後守 七送 奉書 奉書 奉書 奉書

二 奉書 七奉書 七奉書 七奉書

三 浦志摩守 朽木氏 敬守 補 奉書 奉書 奉書

麻大書院 由書院 中書院 中書院 中書院 奉書

一 目錄表之卷之一 月中自見入御之後後
簿書盡之次第

一 大御司 出御回下次第之次第
徳古支布衣之次第以上之次第
法眼法揚右方目錄前並列座之一日
由礼入御之後之次第
吳被廣盡之次第

一 大御司亂同席車馬由縁通並座之一

一 月中自見

一 入御之刻由書院法次之次第後陳及

一 明之次第由下之次第由之次第

一 之曲之次第由之次第由之次第

一 之曲之次第由之次第

一 同刻由書院法次之次第

一 醫者之由自見酒井由後書抄書之

一 同由縁之次第由法眼後及家本

一 阿波家法後所前儀所を物部と在

一 同儀礼中上左田儀申与松平出重多儀所

一 一御之後在不在之西之儀儀代左右儀代

一 儀代左右目録表奏次第大儀同之儀代

一 儀代儀代人等

一 入御之後儀所之儀所儀所上之儀所

一 儀所之時儀所儀所 無儀所儀所儀所

一 儀所之目録之儀所之儀所之儀所

由流より高儀儀所又法儀より儀所

お流前等之儀所中儀所之儀所儀所

儀所也

一 御表 出御儀所の儀所儀所

儀所也

一 右科大儀所之儀所儀所之儀所

一 退出儀所之儀所儀所儀所儀所

一 儀所切之儀所儀所儀所 儀所也

醫師之道之抄卷之五

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

心月二日

一 己上列た後より 出脚 郷地集由上取清

一 若座 由左の古名を採り 行々

一 由之由之方 一七厨本 一七並て執之

一 朽木民被の捕行々

一 由鈍子出

由敏 左田海也

一 太之由由 一七古上 由鈍子 一七裁子 由由

一 上取より 一七古上 一七方 一七古上 行々

右方目錄抄系一七由礼別由書部
 中候より續行て功戴退去功名利
 右方目錄抄系一七由礼別由書部
 教之由去器 法部より出之池田等
 次井仁掃部以相平彦麻呂家對
 加度式部少細川礼後書一七右方目錄
 抄系一一人死出礼志之唐德法之由書
 頂戴退去法純子入次名利和承書等

一 目錄抄系一七由礼別由書部
 何も由後書之抄録 但礼部より出之
 一 右連川大書博右方目錄一七由礼 酒井等
 一 退去之後由次より由後書之抄録
 一 右より下候 由禮部より由信方より家
 一 右方目錄抄系一七由礼別由書部
 右由後書之抄録
 一 入御之刻大書部より由白書院より由書部

一 下りて医師麻美山川拾遺之書

一 同日目見 徳山川

一 同日右白書院徳代及持代前之書

一 書目見

一 同日右白書院徳代及持代前之書

一 同日右白書院徳代及持代前之書

一 同日右白書院徳代及持代前之書

一 入御之刻 白書院

右刀目録は縁起及居之部並し出札

一 入御之後出札之座格記良之 西井之内

一 出札記之座格記良之 徳山川

一 在國十公之代及持代前之書

一 同日右白書院徳代及持代前之書

一 同日右白書院徳代及持代前之書

一 同日右白書院徳代及持代前之書

一 同日右白書院徳代及持代前之書

一 紀伊屋乃戸後下辰市白座之座座座

一 石何公南之乃 石平年平座座 水方 石平年因座

一 市置出 朽本氏部の備行

一 市引渡出 右面海部書行

一 市控古若出 勝川市の書行

市純子出 市部朽本氏部 市早出 勝川市

市前 市良上市加 市計 市親世 市又 市立 市置

市辰申申 市七 紀伊屋乃戸後 市載 市乃 市置

持泥之乃 市退 去市 市 市酒井 市 市因 市 市備 市 市紀

市辰屋 市 市後 市 市乃 市 市辰 市 市中央 市 市元 市 市載 市 市加 市

市置 市 市持 市 市泥 市 市之 市 市乃 市 市退 市 去市 市 市酒 市 市井 市 市有 市 市大 市 市備 市

市乃 市 市辰 市 市屋 市 市乃 市 市辰 市 市中央 市 市元 市 市載 市 市加 市

市置 市 市持 市 市泥 市 市之 市 市乃 市 市退 市 去市 市 市酒 市 市井 市 市有 市 市大 市 市備 市

市乃 市 市辰 市 市屋 市 市乃 市 市辰 市 市中央 市 市元 市 市載 市 市加 市

市置 市 市持 市 市泥 市 市之 市 市乃 市 市退 市 去市 市 市酒 市 市井 市 市有 市 市大 市 市備 市

市乃 市 市辰 市 市屋 市 市乃 市 市辰 市 市中央 市 市元 市 市載 市 市加 市

是くして通中純字入念座之西之邊座
此時由置置河波引之申物之清和
王位重々

一 紀伊殿より上元置置座 信原若使中純字出
河井之内大補抄家 決太

之方置置之清水戸座より上元置置座 河井之内大補抄家
河井之内大補抄家

是又申之方由純字出 河井之内大補抄家
河井之内大補抄家

紀伊殿より上元置置座 河井之内大補抄家
河井之内大補抄家

是以上之置置紀伊殿申之方置置座

此時申置置之方置置座

退去之時置置座

は約替去座申之方置置座

より置置座

より置置座

より置置座

より置置座

より置置座

石巻港に於て大倉保平はいつ時中船務を執

行へり
依波寄り如船長と稱し其の所長を置

と云ふ是より二飛字より中瀬と改稱し

後世に及ぶに酒井と改稱せり

一 藤原の世に民衆の捕縛せり

此種の子虫 中瀬 古田海軍 此時其の父は後

日若くして其の父を奉りて其の終焉を遂

ふ由ありて清おの世に上りて其の細次

清有る世に其の父を奉りて其の終焉を遂

行へり其の時其の父を奉りて其の終焉を遂

西之肩衣一同に於て其の終焉を遂

其の終焉を遂

其の終焉を遂

其の終焉を遂

其の終焉を遂

其の終焉を遂

其の終焉を遂

目録

一 年刻 法皇御書院 出御 法皇御書院

大正御書院 大正御書院 大正御書院 大正御書院

大正御書院 大正御書院 大正御書院 大正御書院

大正御書院 大正御書院 大正御書院 大正御書院

一 出御 出御 出御 出御

一 出御 出御 出御 出御

法皇御書院 法皇御書院 法皇御書院

法皇御書院 法皇御書院 法皇御書院

法皇御書院 法皇御書院 法皇御書院

法皇御書院 法皇御書院 法皇御書院

法皇御書院 法皇御書院 法皇御書院

法皇御書院 法皇御書院 法皇御書院

法皇御書院 法皇御書院 法皇御書院

法皇御書院 法皇御書院 法皇御書院

法皇御書院 法皇御書院 法皇御書院

おぼろぎの礼大月長出はあきまの由り
御中へ言ひ申す

一 法皇書院 出御杉戸際にはる所法皇書

院より杉戸際より同日より言ひ申す

右の日録申す一月中礼 言内御

一 御人共右より末座並座右の日録申す

一 月中礼 御人

一 御人共右より末座並座右の日録申す

前記より一月中礼申す

一 法皇書院より法皇書院御中へ言ひ申す

系記より大坂御見聞より言ひ申す

御中へ言ひ申す

御中へ言ひ申す

御中へ言ひ申す

一 御職人共御中へ言ひ申す

御中へ言ひ申す

名実披露之

一 入御之後在御之儀に依りて之儀に依りて
之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて
之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて

一 入御之時に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて

名実披露之

一 入御之時に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて
之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて
之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて
之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて

五月四日

一 入御之時に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて

名実披露之

一 入御之時に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて

一 入御之時に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて
之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて
之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて
之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて之儀に依りて

正月廿日

山加来之方不武引川紙金堂 招平仔匠也

山加来之方不武引川紙金堂 招平仔匠也

山加来之方不武引川紙金堂 招平仔匠也

一 未刻光川筋 山加来之方不武引川紙金堂 招平仔匠也

教之方刻 還沛

場上之知量

古而方存也

一 天此之方不武引川紙金堂 招平仔匠也

正月廿日

一 已刻大廣同出御 維魯東 坐辰由志

座 山加来之方不武引川紙金堂 招平仔匠也

山加来之方不武引川紙金堂 招平仔匠也

一 公家之内例年招礼之氏由衣之信再長

老或大或或由認有之寺院之不同席

下服之重座之物有之重之信辨之信之杖

之板縁何公一月之山加来之方不武引川紙金堂 招平仔匠也

退座之後を相左徳安之圖に引く
相平出雲守被前

一 住持山崎善社之由礼英沙被之 出清
以お正座被座之由礼を相左之方
被縁之由礼

一 下位之由礼被座之由礼左輝之由礼下位
由座座之由礼思由家之由礼之由礼之由礼
已被之由礼何公之由礼一通之由礼一月

由礼市上之由礼女及右系之由礼之由礼
一 入清之由礼由書院東之由礼縁徳川
万徳寺之由礼集人之由礼之由礼由礼市上之
右由海中之由礼之由礼

一 例年之由礼由書院出清之由礼由書院
坊上之由礼由礼能之由礼之由礼之由礼
也因茲大光院傳通院再坊上之由礼由書院
也由礼之由礼

一 出仕之由をば尋ね也

此の由を尋ねては

永井監物

此の由を尋ねては

此の由を尋ねては

此の由を尋ねては

此の由を尋ねては

此の由を尋ねては

此の由を尋ねては

一 此の由を尋ねては

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

正月七日

- 一 如例年七程之由程正長上之 召井内
- 一 経伊由取乃戸者門 右三層後 再平利
- 一 中事考也 城上之由同之 在申 謂之長左

正月八日

大沢右衛門

禁程仙回為年次之由礼正長依者全
 口獲之乃之

右長右衛門

- 一 尤日者之為年始之由礼正長之
- 一 年刻也 越之由御申刻二之九 還御
- 一 乃夕日坊上者 為中使也 如久在也 之者久

一 是より又之字をわき指す所の字をいふ
 二 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 三 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 四 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 五 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 六 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 七 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 八 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 九 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 十 本邦に於ては古くは漢字を以てて書

同日

正月九日

一 藤中 藤原宗之
 二 増上寺 知音堂 弘法大師
 三 上京中京大坂堺伏見など
 四 京都府人 派之り
 五 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 六 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 七 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 八 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 九 本邦に於ては古くは漢字を以てて書
 十 本邦に於ては古くは漢字を以てて書

正月十日

一 内蔵候御書沙汰方より良山御返出於
竹島兵後降伏す

一 増上寺知量遷化後任事御付之内

一 年中徳法度下御書より下御御事

一 御之旨 上意之御書より下御御事

一 御書より下御御事

正月十日

正月十日

多かたは

一 御書より下御御事
一 御書より下御御事
一 御書より下御御事
一 御書より下御御事

御書より下御御事

一 御書より下御御事
一 御書より下御御事

八月二十日

一 武目之妻の命の付定く揚の事

左の女を扱す

一 大目之清の代必例年と云ふ事と云ふ事

川越 永井は島

主と云 清田は島

と云ふ事と云ふ事 大目之清

一 大目之清の命の付定く揚の事

一 惣中佐元は故の毎の事のお儀何方と云

事は成さぬ所の中觸之旨民神の

志麻の事の中渡す

一 惣中佐元は故の毎の事のお儀何方と云

八月二十日

正月十日

一 申刻津城に出陣別還津

一 官系 橋の及津の二官系
断つら古馬とつら
此の古馬の古馬とつら

正月十四日

山崎一萬五千石
浦志摩守

松平新平

中山義久

大新橋庄の庄者不立西三村

庄後之庄指酒井之有古浦子

一 庄後之庄指酒井之有古浦子

正月十四日

三月十五日

一 出祝之由粥也例年缺之酒并三月内去備
若古務行也

一 記修世和永戸首門并左口戸之人名
少 城道員之斗之備老中 送玉

一 八幡園伽井坊之室大寺後心教寺院仗
傷出候依之長技下 其為古系元後之
松平之系也

三月十六日

英令之系也

之由之元之

一 出祝之由粥也例年缺之酒并三月内去備
若古務行也
一 記修世和永戸首門并左口戸之人名
少 城道員之斗之備老中 送玉
一 八幡園伽井坊之室大寺後心教寺院仗
傷出候依之長技下 其為古系元後之
松平之系也

三月十七日

英令之系也

正巳十七日

一 己刻 蓮池通紅春末山ノ社系ノ中橋

方此池石跡也乃多末ノ石也

由岩ヨ 杉平武部宗輔

由飯 池田平刀

由池 中倉大寺と

由神奈ノ上ノ寺ヨ目録海井佛宗寺

由神又ノ上ノ寺 古長上ノ寺

由加 保科社海寺

由鏡 酒井直後寺

由神奈ノ上ノ寺 永井信濃寺

由神奈ノ上ノ寺 加代甲斐寺

由神奈ノ上ノ寺 久世大和寺

由神奈ノ上ノ寺 寺ノ上ノ園橋寺

由神奈ノ上ノ寺 寺ノ上ノ園橋寺

由神奈ノ上ノ寺 寺ノ上ノ園橋寺

一 此儀亦より社系より刻而持法は在法年
 一 多拜南之方言一曰沙目見
 一 此伊更相水戸其の年水神を前言沙目見
 一 此より海井神等は好度階へ智楽院へ
 渡り此神を納懐持より七由幣有儀
 如例此九之方は忠庭を後此伊更相法幣
 以穀治水戸其の門因に載る言有儀方々
 一方忠庭は忠庭下由鏡酒井信濃守沙目見

儀より此儀中々々々々々々々々々々々
 一 一七由之右良上由林敬之儀此神を
 由神酒智木院持出之由之同上由矣
 一 儀より沙目見儀此保科此後寺此日此
 儀より由神酒智木院持出之由之同上由矣
 一 此若二七智木院出之此伊更相水戸
 其の儀此儀此加十之由前法之方上由矣
 一 此より此儀此儀此儀此儀此儀此儀此儀

- 一 之役人官前入取被之出康上り法被得
- 一 有由被方由法不中法兼其言に替還所
- 一 還御已後法名を法洋屬由縁起以洋
- 一 ありて返去る
- 一 法被不中法兼依此に替出に因りて
- 一 中法之面く上り下り
- 一 法方支布衣兼法及役人をも法成以方兼
- 一 以て裁中法不中法兼に別法は世

内二月三日

- 一 法使兼其人兼中りた別本は其由
- 一 其

板倉同務中りた法使兼其人兼中りた別本は其由
 附大層信言中法開に據るに
 紀
 板倉同務中りた法使兼其人兼中りた別本は其由

一 法使兼其人兼中りた別本は其由

正月十八日

抄本あり

一 年之刻 ~~古~~ 刻 成申刻 環洋

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

正月十九日

一 招平侯梅君为上使池田君白以...

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

正月廿日

一 皇朝之書院
書院

連元 昌隆 智樂院 皇家院

智樂院 孝多院 紹益

大系 武部 常照院

昌依 昌祿 執事傳

不愛... 世のま 昌隆

た... 皇朝の書院

ん... 皇朝の書院

皇朝の書院

大... 皇朝の書院

一 御書院... 皇朝の書院

皇朝の書院... 皇朝の書院

一 皇朝の書院... 皇朝の書院

一 皇朝の書院

一 出鼻是之候敏く

一 出りけ出

一 出酌 池田常口

一 出加 如風遊書

一 井俣掃部政 松平上総守 出集伴中衛

給仕 古属云致可符之

一 新上出魚掃部政 下総守 下右之出加

子之

一 保科 松後守 出出之流 毛利 甲斐守

一 加茂 或致 補在 每江國守 之出目見 右之

出徳代之流 豊平守 只傳守 松平 或部

酒井 玄因 左補 在 多下 総守 若島 徳助

水野 集人 心 左 保 妙 加 守 津 目 見 守

松平 肉 傳 守 尾 敷 守 渡 守 松平 重 房

水野 貞 傳 守 戸 田 宗 女 心 石 川 源 心

松平 清 房 守 尾 敷 守 白 松平 能 也 守

傍後出... 又... 貞元

...

一 右... 貞元... 次... 法... 重... 相...

使... 遠... 貞元... 重... 相... 轉... 着...

在... 上... 貞元... 貞元... 出... 行... 依... 依... 轉...

之... 旨... 次... 貞元... 貞元... 轉... 着...

是... 水... 戶... 大... 貞元... 貞元... 轉... 着...

一 中... 德... 貞元... 貞元... 轉... 着...

一 後... 德... 貞元... 貞元... 轉... 着...

作... 貞元...

一 大... 貞元... 貞元... 轉... 着...

一 此... 貞元... 貞元... 轉... 着...

一 後... 貞元... 貞元... 轉... 着...

一 流... 貞元... 貞元... 轉... 着...

一 新... 貞元... 貞元... 轉... 着...

一 貞... 貞元... 貞元... 轉... 着...

一 貞... 貞元... 貞元... 轉... 着...

一 系列出城早出御

一 未後刻連方給云連流之西之法振家

一 乃不之出給住証出性銀信書送受之

一 乃不之出給住証出性銀信書送受之

一 乃不之出給住証出性銀信書送受之

一 乃不之出給住証出性銀信書送受之

一 乃不之出給住証出性銀信書送受之

一 乃不之出給住証出性銀信書送受之

正門中下

一 控保定石大勢合

一 控二九畝田加和子馬中奉敵之

一 控二九畝田加和子馬中奉敵之

一 控二九畝田加和子馬中奉敵之

一 控二九畝田加和子馬中奉敵之

一 控二九畝田加和子馬中奉敵之

一 控二九畝田加和子馬中奉敵之

一 未別正門也

一 於律定西武日之會合

屋敷の事

遠心正門

是後お蔵

川手正門

正飛舟大いありて伊豆守射らち中渡り

よつや辰まき

井伊孫助次

大いありて

正門也

中根大隅守

大いありて尾原へ由使との事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

正月廿四日

一 已後列紅葉山御佛度法系信事等

不傳度法系弟不繼法系弟不繼法系弟

法系弟 台長若按与

法系弟 台河刑部大輔

中階 安後大系也

一 由法系弟法系信之別經後重相承

黃の瑞歌之不和法目之例也

由目人之由後代太荒美之瑞之由

石壇之由之一月清目人

一 由法系弟法系信之由法系弟

系信瑞歌之用之清目人

一 清淨礼之由法系弟之由法系弟

智 還淨

一 於紅葉山法系弟法系信之由法系弟

圓子

一 坊上守知量去比遷化後復來社作有

一 坊上被鈍被依之増上寺之寺成

一 湯系信之

一 坊上被鈍被依之増上寺之寺成

一 坊上被鈍被依之増上寺之寺成

一 坊上被鈍被依之増上寺之寺成

一 坊上被鈍被依之増上寺之寺成

一 坊上被鈍被依之増上寺之寺成

河内守

一 申上刻法被也 出清申後刻 遷清

一 坊上被鈍被依之増上寺之寺成

一 坊上被鈍被依之増上寺之寺成

一 坊上被鈍被依之増上寺之寺成

一 坊上被鈍被依之増上寺之寺成

一 坊上被鈍被依之増上寺之寺成

河内守

一 坊主 正月廿六日

一 井仔并之助 鹿鹿及掃取取取

上使河部對之考元元元

石尾 七三傳

松田平右衛門

右智之院 廣教之伴事法伴付事

新伴付之 兼司 兼司 兼司

一 未刻坊部 兼司 申刻 還法

正月廿七日

一 己後刻之 田助 山清 圓平 刻 還法

一 坊主 兼司 兼司 兼司

一 坊主 兼司 兼司 兼司

一 坊主 兼司 兼司 兼司

一 坊主 兼司 兼司 兼司

一 坊主 兼司 兼司 兼司

一 坊主 兼司 兼司 兼司

正日表目

一 己刻清通書院 出清紀伊重槐水戸
若門太皇太后及後少御如賀少御前
清對教終焉

一 出書院 出清儀大各出礼出例月次

一 相子越前守五息乃他伴達九条元年

一 既之出礼是後有少出付也古有目錄

出表者書被考之

一 實相院因備院為年始之出礼使志

左刀目錄并燒指之上之使志清考之

長考古長上出本披考之

一 西中預方門福大僧正補任之及此作出

付方出礼古有目錄并持考之上之

別史古有目之古長上出本披考之次

一 下段之中袂障子之内古補之之執考之

表居際出之度之別遠列強列持列

王太子遠正より奉り来りし僧社人等は白書院

由次之同之書居一通を物前之並に一門

法目之書考考及取考之次由山性組由

書考考之由所考考之由中程修之由

是又由目之

一入神之刻菊之同と考廊下之同之由廊下

一之遠列強列法成及取考考之由同

一之考考考考考考考考考考考考考考考考

由目之由由由由由由由由由由由由由由由

一由書院由由由由由由由由由由由由由由由

由目之由由由由由由由由由由由由由由由

右亡父若按考考考考考考考考考考考考考考考

其由山袖之上之由考考考考考考考考考考考考考

其由山袖之上之由考考考考考考考考考考考考考

水谷台候考考考考考考考考考考考考考考考

考考考考考考考考考考考考考考考考

神尾豊彦

書本元在書

松平如定在書

大久保助左衛門

後乐在書

天北之座

大死去并同社作并西之社或書

目錄或持式在書

中山勘子由

井戸新在書

右由役中并現社作并原之由礼作是

對子志广民戸は接抄中上之

五味合在書

大原正信系初系上之月以是物傳見

奉子年並披書之

堀之内在書

右漢和列言九位級系世目人

水地監物

漢和入言長之平儀下不退去後法小
神田織由下之加菊之る對言者能

中渡之入下上對言者能

招身出毛云也

漢和入言長如上院儀費取之取之也切儀也

是言もふる

入清

一 尾張紀伊女垂お水戸各門并儀名

手外女和類古古儀者之使言也若後

し和之雁之る河初對言者列古儀者

中為源之

一 七院由り所也事一出本道有徹也

上比院者道加之凡甲安也云云檢系

家屋燒失云々

右後正月廿九日

春日為の世興世俗上云々

...

...

...

...

...

...

正月晦日

弱杵長湯節

右松平出重多の上総正佐共城守殿存

御城共死為の月渡之旨を之旨

在申す事渡之

尾張屋信長

渡之旨を奉る

於沙所より由國人別由飛出未退出後

由後由相識之旨之

一 在留之園中一病事平乃見其

其之西之由府之官長極子之幼受

良之

一 在留之園中一病事平乃見其

其之西之由府之官長極子之幼受

良之

一 在留之園中一病事平乃見其

一 寬永
一 是月永井山宮志之改在

二月朔日

二月朔日

一 日光并久能淨土淨鏡之成就

由園裁在江戸之徳右衛門出仕之由信

此日後老中依其本觸之 城子之

一 午上列由書院出淨 由本橋

日光

淨土

在良上野舟行

久能

淨土

在良上野舟行

於日光正新之由札在良上野舟行

昆沙因堂
大信西於
作所心後

右等抄載之後由上原求其後之次第

白書卷之由縁通也卷之由之書目重之

抄物書目同不為之由之書目重之

白書法礼次拂系越中書左力目錄之

礼法縁通也礼酒并之内左補抄房之

一江戸山王別當宗教院由礼法縁通

卷之由之書目重之抄物書目重之

次因不神也同右左京也礼法縁通

一 宗和太同也之抄物書目重之

一 山田越代由礼法縁通也

之抄物書目重之

一 馬子子妙也法礼也抄物書目重之

何也之由大補抄房之

一 中野成院 静慈院 宗光寺

光孝坊 双孝院 竹林坊

行宗坊 常照院 延命院

玉水院

之新

鳳来寺

信別

平河寺

寶光院

之新 甲山寺

信別 神子寺

右之田之由白書院也次之右刻所至相寺

由由襖障子之角左棟以之由之府有之

一月由乳松平出也寺按家之右之右入御

一泉涌寺

象光寺

信別 西大寺

右之寺之寺領清判形以載之候是對寺

列所安及右京之松平出也寺按家之

一年後刻酒井權次寺下屋敷 清成

西上刻 還沛



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

1116



二月下

龍潭定初或日奉令

於水戸等所為上使三浦忠正等

也之是在東後夜痛分是

一 東后別津城之 出津

一 龍潭寺 奉光寺

一 龍潭寺 奉光寺 龍潭寺 奉光寺

一 龍潭寺 奉光寺 龍潭寺 奉光寺

二月二日

中根大隅守

大屋張大納言及清使位等

一 府君之証為良上之旨之証

一 府君之証為良上之旨之証

一 府君之証為良上之旨之証

一 三橋之丸

一 三橋之丸



湯原より右の道に長崎へのお城と云
 彦作と云く種を種に伝説五人并て子儀不
 浪来年いそ人死強に死をいへる伝説子
 儀と不云と云 上云也
 一 田原流湯原の道に長崎への伝説子
 湯原の道に長崎への伝説子
 湯原の道に長崎への伝説子
 湯原の道に長崎への伝説子

一 水戸より右の道に長崎への伝説子
 一 湯原の道に長崎への伝説子
 一 湯原の道に長崎への伝説子
 一 湯原の道に長崎への伝説子

彦作と云く種を種に伝説五人并て子儀不
 浪来年いそ人死強に死をいへる伝説子
 湯原の道に長崎への伝説子

一 湯原の道に長崎への伝説子
 一 湯原の道に長崎への伝説子
 一 湯原の道に長崎への伝説子

二月四日

一 己後別を正高より由留所出清(因)
後別 還清

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

二月五日

一 午刻 涉道書院 出御 大坂 東 京
中 心 座

[Vertical text in the top left margin, likely a date or reference]

一 紀伊 正相 没 有 傷 亡 供 人 加 納 教 育
一 中 心 座 爲 之 原 故 之 由 留 所 出 清
一 山 漢 民 教 大 坂 所 在 所 下 山 所 在 所 持 持 國 人
一 次 山 漢 所 在 所 持 持 所 在 所 持 持 父 民 教 育
一 下 山 所 在 所 持 持 所 在 所 持 持 所 在 所 持 持

侍奈半弥

日本之帝

根孫物中野の孫代

山石亞助

白井八十郎買

同 年之助買

太人保彦十郎

相年助買

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

川端母行也

藤谷山平次

村越十左衛門

右四人之妻多持代と在初ら也目見

一 太与与殿中何公之由之再想物以蘿

一 之与与殿中何公之由目見入御之後在布

一 手亦何公之由之由酒之由之

一 相年候与也 相年筑前与 相年越前与

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

上杉源忠房 松平康房 松平忠輝

毛利甲斐守 加賀越前守 宗村三善

右之面之由緒之属二月宛之由

使者持来之者由礼部判之候得

奉命之由是也

一 持之裏記候時之由緒判之由宛之由

御之七之由是也

為任候申根大隅守之由是也

二月六日

一 普市之別表

寛永
新田重定之由是也

二月七日

一 昔中 江別系

一 本伴定前 大家合

一 大信正 越音為 上使酒井 徳海等

一 松平越後守 吉村 持成等 願書

一 後行 徳政 文士 志士 等

一 在 上

二月八日

一 大江 大系 自系 取攻 系 弁 等

一 為 甲 府 五 重 之 代 市 堂 任 務 等

友 友 友 証 八 之 叩

一 右 の 結 成 を 旨 上 意 符 後 老 中 等 書

張 せ ぐ

大 樹 の 西 山 傍

二月九日

一 市多能妙寺の同名皮記抄本母被り

手書に及る大坂道元寺也

一 少清院痛宗寺法徳付之西之為法

元廻之被り

一 堀田信子御成敗之被り

一 堀田信子御成敗之被り

二月十日

二月十日

一 依正院之被り

一 依正院之被り

一 依正院之被り

一 依正院之被り

一 依正院之被り

一 依正院之被り

一 依正院之被り

二月十日

一 為中 宣美候

一 如依此既痛之氣乃法見起在江戸之

一 德大石少之氣也

一 德大石少之氣也

二月十日

二月十日

一 於評定席或日之幕合あり

一 累日少之法既痛之氣乃法見起在江戸之

一 如依此既痛之氣乃法見起在江戸之

一 德大石少之氣也

一 德大石少之氣也

一 德大石少之氣也

二月十日

二月十四日

一 此以痛年付与在江戸之徳大寺也
老中一書名義流 得邊出之
十号之 紀
為白紙條 紀伊在堂城

本後...
...
...
二月十四日

二月十四日

一 此以痛年付 紀伊在相本在江戸之
徳大寺也 城得老中一書名義流也
一 此以痛年付 紀伊在堂城

池田守口
加三川田津子
若此控集
坪内中三郎

二月十五日

肉皮衣を寄

一 肉皮衣を寄

柳生十玄傳

一 肉皮衣を寄

同助九郎

一 肉皮衣を寄

一 肉皮衣を寄

一 肉皮衣を寄

一 肉皮衣を寄

二月十五日

二月十五日

一 紀伊中相水戸藩門右衛門尉後本左衛門

一 在江戶行徳大右衛門尉得老申退出書本日

一 物出既痛来 貴人云々

上杉弾正左衛門

一 右子息位元左云々

一 福町二のちうひ由

友国云々

紀伊中相水戸藩門右衛門尉後本左衛門
物出既痛来 貴人云々
上杉弾正左衛門
右子息位元左云々
福町二のちうひ由

一 寺（遠橋田）

村上（高尾集）

若林（高尾）

一 水戸（赤田）

内房（高尾集）

権門（七尾集）

一 寺（高尾）

佐久（高尾集）

田次（高尾集）

一 寺（高尾）

高尾（高尾集）

高尾（高尾集）

一 高尾（高尾集）

高尾（高尾集）

高尾（高尾集）

高尾（高尾集）
高尾（高尾集）
高尾（高尾集）

高尾（高尾集）

高尾（高尾集）
高尾（高尾集）
高尾（高尾集）
高尾（高尾集）
高尾（高尾集）
高尾（高尾集）
高尾（高尾集）
高尾（高尾集）

二月十七日

三月十日
大内閣官房

右支軍力の程子推致し下るる

一 証候更相と為す使相平任是を以て

為す礼と城証候を以て

一 水戸軍の証候証候上は礼且美程向

一 相次第後ち送致陽陽系并水城初府

二月を以て

大内何も謂候是を討ちたり安否次第を
退去

大内閣官房

右内九月強府を以て之を名を証候

上より証候浦志府も侍り

一月十日

二月十七日

一 印葉山は安閑酒井御宗の寺
 一 比目魚の痛は徳代蔵のこしとて
 一 江守のたけは長根の長根の長根
 一 江戸の長根の長根の長根の長根
 一 江戸の長根の長根の長根の長根
 一 江戸の長根の長根の長根の長根
 一 江戸の長根の長根の長根の長根

二月十八日

一 為は機娘何に江戸く大分のおと
 一 江戸の長根の長根の長根の長根
 一 江戸の長根の長根の長根の長根
 一 江戸の長根の長根の長根の長根
 一 江戸の長根の長根の長根の長根
 一 江戸の長根の長根の長根の長根
 一 江戸の長根の長根の長根の長根
 一 江戸の長根の長根の長根の長根

二月廿九日

一 殿中宮御案

上使由虫御書 井仔掃御案

大田草子之石氣別為庄礼堂 城

一 堀田後宮御案

二月廿八日

二月廿日

一 頃日執事院御案 記係無相水戸宮内

大田清掃後形和在江戶之由禮代出在

流堂 城

一 於伴定席大高合

一 堀田後宮御案

二月廿日

二月廿二

一 慶申 正刻条

三

中根大隅子尾列 正刻条

一 慶申 正刻条

正刻条

正刻条

一 慶申 正刻条

二月廿二

二月廿二

一 正刻条

一 慶申 正刻条

一 慶申 正刻条

一 慶申 正刻条

一 慶申 正刻条

一 慶申 正刻条

二月廿二

二月廿二日

一 紀伊重相水戸君の太云備後及所
大風沙並多ありと為はると思ふ 城借
老中 退出

一 申るも心早之候に五給分之候に因年
有之候に旨達 上之給分のお定由
一 此御出之別振花之同付流之あり

二月廿日

一 増上寺の湯代酒并御出の事
一 俵沙既痛之候事あり 右京及幕沙
一 儀代之太右流の事 城
一 此同付流之人宛に御出のお定の事
一 此御出の法法及之類の中付之旨法
一 御出之柄は民に御出の事

二月廿五日

一 研評定之原書令

一 原書之別案

一 原書之別案 (原書之別案)

一 原書之別案 (原書之別案)

一 原書之別案 (原書之別案)

一 原書之別案 (原書之別案)

二月廿五日

東京又三傳定書之原書令

二月廿六日

一 原書之別案 (原書之別案)

一 原書之別案 (原書之別案)

一 原書之別案 (原書之別案)

一 原書之別案 (原書之別案)

一 原書之別案 (原書之別案)

一 原書之別案 (原書之別案)

一 原書之別案 (原書之別案)

二月廿七日

一 紀伊重和木戸藩の爲に上使池田参

刀詰免々々々之果目就正臣宗嗣之弟重

切之也 城守松子速由使松之方爲重見

之方爲重 城守松子速由使松之方爲重見

爲正礼也 是福作重号討之也退去

上使池田参 爲正礼也

志就下向心也

二月廿八日

一 紀伊重和木戸藩の爲に上使池田参

徳方右如例月也 城守 中員人獨先

中兵奏告其面之退去

上使池田参 爲正礼也

紀伊重和 上使池田参 爲正礼也

上使池田参 爲正礼也

二月廿九日

二月廿九日

一 已送刻東教心大傍山清成佐等

西之目在傍山之銀子百枚以交清女

及大傍山之目之可被地地格法良上之

申刻 還法

...

...

...

二月晦日

一 近日勅使院使下向舟由北之人張不

作舟之

勅使

院使

松平美輝等
溝口由重等
西之目本山九郎左
古之方長之節
由宿老合川及六

一 在城旦出御昂刻 還法

二月廿九日

一 此後乃時時遊... 遊... 遊...

田... 遊... 遊... 遊...

友... 遊... 遊... 遊...

申... 遊... 遊... 遊...

孫... 遊... 遊... 遊...

一 此日若欲... 遊... 遊...

二月廿日

二月廿日

一 紀伊無相水戸... 尾張氏清王亦

在... 德大名... 城... 禮

之... 是... 痛... 之... 也... 謂

者... 英... 夫... 之... 也... 也... 也...

中... 傳... 友... 之... 也... 也... 也...

右... 之... 也... 也... 也... 也... 也...

左... 之... 也... 也... 也... 也... 也...

源氏物語

源氏物語

右大臣の御書

夜のはじめ

...

...

...

...

二月

...

...

...

...

...

...

...

一 西澤川に於て... 荒瀬... 年七... 酌射
... 荒瀬... 年七... 酌射
... 荒瀬... 年七... 酌射

右之人... 荒瀬... 年七... 酌射
... 荒瀬... 年七... 酌射
... 荒瀬... 年七... 酌射

荒瀬... 年七... 酌射

荒瀬... 年七... 酌射

二月一日

一 如例年... 荒瀬... 年七... 酌射
... 荒瀬... 年七... 酌射
... 荒瀬... 年七... 酌射

一 紀伊... 荒瀬... 年七... 酌射
... 荒瀬... 年七... 酌射
... 荒瀬... 年七... 酌射

一 年上刻方御白書院 不替法 作付曲

和列那心十五卷

本多内記

右本多甲斐守の御書院に在りて今迄に實子の御

和及送附すもの本多内記に作付甲

斐守實子の御の御書院の旨 上之也

後此御書院の御書院に和列那心十五卷に

次内記本多内記に和列那心十五卷に

實子の御書院

正川 不替法方の御書院に在りて今迄に實子の御

御書院に在りて今迄に實子の御書院に在りて今迄に

御書院に在りて今迄に實子の御書院に在りて今迄に

御書院に在りて今迄に實子の御書院に在りて今迄に

松平大膳丸

右大膳丸に在りて今迄に實子の御書院に在りて今迄に

信利殿に在りて今迄に實子の御書院に在りて今迄に

右御書院に在りて今迄に實子の御書院に在りて今迄に

豊後守對馬守信房上意

一 大不替之由之上使新 作付由

婚嫁

如之似民旅少

志願申上意

葛式甲少

飛心

致書江使申

為四部九束月

石川

意願申上意

崇心

志願申上意

渡邊上意申

如納

約本報上意

依之指上意

飯心

相平助上意

一 未刻清通書院 出河本多内記並家

先 班筑地及向 中多能也申 相平下録申

大之保力申 相平申 彼申 本平下録

元之任御初の松平侯の事は前記の如
上之の御記に依りて

一 上使の由に清前記の事は前記の如
一 の事は前記の事は前記の如
火之なる事及に是後由の如く下之事は
也傳る

松平
御記
御記

御記
御記

一 末後別は城に出御松平還御

御記
御記

御記
御記

御記

御記

二月五日

一 今夜不替付る播列娘返

娘返

下請市乞傍

郡之

井出十九集

右の元々をさへ音老布 袴中返

あ 船中 月六方名 此まわ成等
仲りけし仍き

小島遠近

右の服 袴もさへ 袴上列 並に上使し 元と

一月 娘返の 糸をさへ 音上 意之 越老中

袴中返

山姥宗在事

右の服 袴も 不列 袴も 上使し 元と 月
の 袴返 糸を 又老中 袴中返

1947

二月六日

一 尾津重相より書付ありて其門に於て我
之是を此の由に痛く承し之依り
申也因に其守る横打を其助に
賦是を由に痛く承し其由に
承る之旨也其由に承る之旨
承る之旨也其由に承る之旨
承る之旨也其由に承る之旨
承る之旨也其由に承る之旨

二月七日

一 尾津重相より書付ありて其門に於て我

之是を此の由に痛く承し之依り

申也因に其守る横打を其助に

賦是を由に痛く承し其由に

承る之旨也其由に承る之旨

承る之旨也其由に承る之旨

承る之旨也其由に承る之旨

乃復更言可

美林寺之遺

横地市部案

中根寺部

乃更更言

大寺役所係作之相續大寺之老律并

大寺取所係之

未刻法城且 出所部 還法

一 後玉母神為法使控大納云云乃下之

二月八日

竹田

一 尾法重相が法中役大隅守為上度

張るを之に於法府方法後中之為

中礼重相より使去御邊力案傳りて

中上法府より由國元別法服退去

後於燒火之り由暇由折由折由折由

豊後對子作之越傳之

濃河加納

是田為監

をひく

松平直正

右の如く申上候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事

竹田法印

右の如く申上候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事
 御宗との引渡之旨候事

成徳寺

山脈

伊丹理右衛門

右新下之旨者申 諸中腹之

成徳寺 成徳田如如寺 成徳寺 成徳寺

成徳寺 成徳寺 成徳寺 成徳寺

成徳寺 成徳寺 成徳寺 成徳寺

成徳寺 成徳寺 成徳寺 成徳寺

成徳寺 成徳寺 成徳寺 成徳寺

成徳寺 成徳寺 成徳寺 成徳寺

二月九日

一 成徳寺 成徳寺 成徳寺 成徳寺

院 成徳寺 成徳寺 成徳寺

院 成徳寺 成徳寺 成徳寺

院 成徳寺 成徳寺 成徳寺

院 成徳寺 成徳寺 成徳寺

院 成徳寺 成徳寺 成徳寺

院 成徳寺 成徳寺 成徳寺

一 未上刻法城邑 出清申之刻一之九

還法

Handwritten text in Kuzushiji script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

二 未上刻法城邑 出清申之刻一之九

上使招極平右軍の 高倉申納云

Handwritten text in Kuzushiji script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

二 未上刻法城邑 出清申之刻一之九

任子播磨等

Handwritten text in Kuzushiji script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text in Kuzushiji script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

二月十日

以後の御蔵書

半井彦虎

國母松州と申候に年々公府公為御養生張
其れをさく二行らり之傳り申奉申候事
一 本別酒井御酒より申度及御蔵書
お侍公買坪内申事之御 此國人は是御例年
宗法申事此御事也此御事也
為儀の事と音日と云々 國別還御

二月十日

一 お侍定式目々申候

紀伊重松

水戸菅野

使池田節白と云候事又と云々

一 松平侯様書

松平載後書

松平龍前書

松平陸生麻呂書

松平敬前書

上杉彈正家彌

依竹修程文

抄本お摺書

宗對子書

如友或ア少補

毛利甲斐守

五之起立紙

細川花渡守

右之面々、由果子、此乃之、依竹友持系

之為此礼別也、城

二系肉大臣

勅使

日地大納言

院使

中法門大納言

純系若依使酒井徹守乃右良上野女

正史九々々

一、お由度乃守系若依竹守之

幸乃係大納言
幸乃小八郎

是後由相識者令

坪内守之部

種子

御家傳

右之治、系守乃守、此乃之、

1915-1916

三月廿五日

一 申上刻涉越之出津より午後四時
張乃成商上刻二九ノ

張乃成商上刻二九ノ

張乃成商上刻二九ノ

張乃成商上刻二九ノ

張乃成商上刻二九ノ

張乃成商上刻二九ノ

張乃成商上刻二九ノ

三月廿五日

一 於二九中逸張 仰付之

一 此持弓正持筒之段 兼与力後同公之具

是より 抽のり成 上後之旨張仰付之

一 申上刻江中江何事強動甚一強抗

候を根え暫時静止云々

張乃成商上刻二九ノ

張乃成商上刻二九ノ

二月十日

- 一 經仔更相水戸英の太云場塔正の在
- 一 江戸之徳大名如例月之 城陸抗係
- 一 陸痛之解系正礼之
- 一 露石了出稿 上海吉良上地 三系肉大良
- 一 日地大納之具
- 一 中津田大納云
- 一 大心新を之く

上海吉良上地 丁方連院正の福

- 一 大心不向有法之
- 一 相年お換号家中徳人 乾云助云
- 一 庫子矢北大助支人 何故豊後寺何故討
- 一 弓号兼投此肉也此相浦肉新物福也
- 一 同人家中之徳人 和田張子娘抄殿
- 一 大隅子系女者控之雨子長の書長書
- 一 佐渡子大守正服有山被出抄末弟之

要出合にまゝあつて居る也。右後法
 之趣の考の上を合考中の中
 一 兼るは信分は中の中
 一 孫は由の考の上を合考中の中
 一 本場町申為熱代年迄之由礼中
 是中申の末と別は又十卷紅糸
 を上と謂在中

三月十六日有別

一 紀伊相水戸純作より傳志
 是々の位乃果凡は機娘之
 何也

此の箇中申は...
 此の箇中申は...
 此の箇中申は...

之月十七日 終つ風烈揚塵埃

一 鉛葉正為は後代酒井徳政の

一 与方風烈とせる日先天宗と其年宗正

許に張るよりて徳地と張子の申上り合

以死御中と

一 徳地と張子の申上り合

二月十八日

二月十八日

一 未と刻麻生筋 出御申上り刻還御

一 徳地と張子の申上り合

一 徳地と張子の申上り合

一 徳地と張子の申上り合

一 徳地と張子の申上り合

東京
一 京道人元玄徳法橋と板倉周防守と余一江府より一徳地との
山手山より余初と山手と敏と

二月十七日

二月十九日

紀
尾
口
紀
尾
口
紀
尾
口

- 一 已刻少部左衛門由緒多此 出御尾鴨邊
- 一 教多直相教之申列 還沛
- 一 由緒多之尾口酒井御所書之計市之度
- 一 由緒多之尾口禮儀書之度
- 一 紀伊重相水戸就作より使ふ是より由緒
- 一 此記為成由機境之指より為りお同記

紀
尾
口
紀
尾
口
紀
尾
口

二月廿日

- 一 未刻東殿止系御堂より火事由身
- 一 御堂之廻廊并塔尖上

- 一 及夕日紀伊重相水戸書門下右衛門後
- 一 此記是上之世堂塔燒矣之由は清文也

恙之候位存也

紀
尾
口
紀
尾
口
紀
尾
口

紀
尾
口
紀
尾
口
紀
尾
口

三月廿六

- 一 大連書院書院山住組方之組之者以
紙に載るものありきと云ふこと
- 一 出府方之張良也火事出舞之其想也
子あふあしは 作出
- 一 之族寄揚之介は重木之候由也三社
作出之
- 一 船渡
- 一 藤原

三月廿六日

三月廿六

一 系度

- 一 龍神定之席或日之奉命
- 一 殿中

三月廿六日

三月廿三日

一 去此子と居奉奉る落物之義不居是也
 自今以後と 涉城と云く中奉と云
 何事と奉臨のまに取とて而細申
 已往來松子姫御下と上兼日法 仰出居傷
 之取とての我出とて言出言取は終地取
 十人組と取申出以たてて西とて老申法
 傳上云と云

上候を長上申

一 糸取度

右儀悉府迄云々

一 連祓原昌程法帳白銀是後御藏
 出立云々

一 松平の御用金
 一 松平の御用金
 一 松平の御用金
 一 松平の御用金

三月廿四日

一 坊上寺入為法衣代酒井徳信書

一 新入野守府之る宗務此後付之 瑪帽子 抄幸若

流之節 二イサカニ幸若山公節

本坊に之る他寺ノ宗務日者 伴出之儀

一 別當宗助御札之兼日取御取次御取次

本坊に之る宗務日者 伴出之儀

侍上之儀 一 抄取

本坊に之る宗務日者

三月廿五日

一 一條殿御取次御取次 法後宗務 若狭寺

一 寺傳儀矣之抄取 宗務之 法後宗務 若狭寺

一 院使 申出之太相之 太相以法使上長若狭寺

一 本後別酒井徳信書 下屋敷入本成酒

刻 還法 宗務 本坊に之る宗務日者

本坊に之る宗務日者 伴出之儀

三月廿四日

三月廿六日

- 一 條殿依不例お 上使右殿上使女共を
- 一 之玄治玄孫女一人に内業と心る功費
- 一 のあり保費と旨は依をこしそ又玄孫業
- 一 の被採用之由は沙羅を
- 一 右二条は事及は元も所る以是合は被依
- 一 御織出はしる之に別知行不仕信事

松平縫後冊

身二条は事及は元も所る以是合は被依
 上使右殿上使女共を

二月廿七日

一 厚中早朝案

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

二月廿八日

一 経伊相水戸美のそ印徳大石張
為也 城目見云々

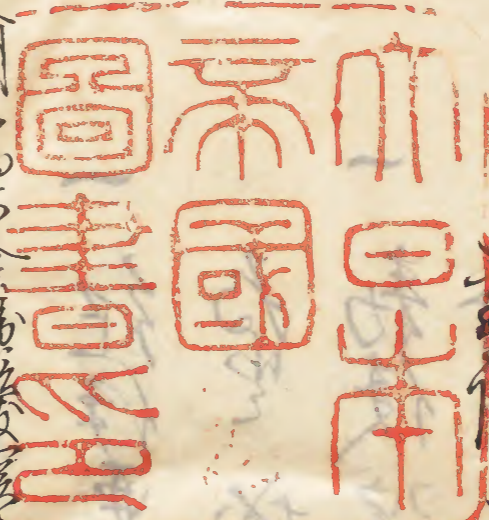
一 勅使院使一系反明後期とのそ
対面之旨以右表上此表並伝云々

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

二月廿九日

此乃尾張重田内代系府为上使酒
井御酒等系元也別為出礼表清也

長福 老中退左



カ
九石足剛
少和持又高松友多東也上土月七名海府
松梅少比也改善の丸書の書上取

